

木のいえ一番ゼミナール木塾 経年で美化する建物を目指して

3. 木のいえを長持ちさせる(腐朽・蟻害) 理解度確認テスト

名前 _____ 理解度 _____ /100

Q. 動画内で紹介した木のいえを長持ちさせることについて、空欄に適切な語を記入、もしくは選択しなさい。 ※同じ番号が繰り返し出てくる箇所は、最初の番号に記載せよ

1. 木のいえを長持ちさせるために大切なことは、①()と②()から守ることである。

木が腐る原因は、空気中に存在している③()が繁殖することである。③()はどこにでもいるが、4 条件がそろって初めて繁殖し、木が腐る。4 条件とは、栄養となる木材、④()、⑤()、酸素であり、このうちコントロール可能なものは④()である。

2. 腐朽しやすい箇所や腐りやすい部位、その対策について

■腐朽しやすい場所

- デッキなどの水平な面や上向き亀裂の内部など水分が⑥()する箇所。
- 木の重なり部分や接合部など⑦()しにくい箇所。
- 地面の跳ね返り水のあたる箇所。
- 地面に近いなど⑧()が多い箇所。
- 軒から⑨(近い / 遠い)外壁下部など雨掛かりの多い箇所。
- 温度差による⑩()が溜まる場所。

■腐りやすい部位

- 木材の⑪() = 他部材と接していると、水が多く浸み込み乾燥しにくい部位。

■設計対応

- 軒の出を⑫(深く / 浅く)し、雨掛かりを少なくする。
- 軒先の雨だれの跳ね返り対策として⑬()・⑭()を施す。
- 雨どいが⑮()と樋外部に水が伝い、固定金物から壁内部に水が浸入するので、雨樋にカバーを付けるなどして、落ち葉の季節や雨天時に点検する。
- 木材の木口から木材成分が染み出ることがあるので、汚れを防止するために、白壁は⑯()階、木の壁は⑰()階にする。
- 柱の足元の木口は、部材を密着させず⑱()と乾きやすくお手入れしやすい。
- 母屋・垂木の木口は、⑲()または胡粉で保護する。
- 部分交換しやすい納まりにする。

■腐朽の抑制

- 水分が溜まる場所、水分を吸収する場所、乾きにくいところが腐るが、⑳()を浸み込ませれば、抑制できる。
- 木材を㉑()で使うと、腐朽危険箇所は分かり易く、お手入れしやすい。

- ②②()発生の危険箇所・配管周りは点検できるようにしておく。

3. シロアリ被害の防止

- 基礎立ち上がり部分の②③()をチェックする。チェックしやすいようにまた風通しを確保するために、基礎をモノでふさがない。
- 地面と建物を結ぶ配管の②④()部分も注意。
- 春先の②⑤()に注意する。